

# みどり樹



学長新任のご挨拶

何よりも学生を  
大切に作る大学を目指して

特集

出羽山形は、大都市だったかもしれない説。

研究室訪問 / 地域教育文化学部

食環境デザインへの高まる期待。



### 結城章夫

ゆうきあきお●1948年9月23日生まれ。山形県村山市出身／山形県立山形東高等学校を経て、1971年東京大学工学部物理工学科を卒業。同年科学技術庁に入庁し、1975年にアメリカ合衆国ミシガン大学大学院にて工学修士（原子力工学）の学位を取得。中央省庁再編後は、文部科学省事務官となり、文部科学審議官等を経て、2005年1月に旧科技厅出身者として初めて事務次官に就任した。2007年7月に事務次官を退任し、現在に至る。

## 学長新任のご挨拶

# 何よりも学生を 大切にする大学を目指して



9月1日に新学長に就任いたしました結城章夫です。「自然と人間の共生」を基本理念に、「地域に根ざし、世界を目指す」を合言葉にして進めてこられた仙道前学長のお仕事をしっかりと引き継ぎ、同時に、新しい風を吹き込んでいくつもりですので、どうぞ宜しくお願いいたします。

私は、山形大学の外から学長に就任いたしました。大学のしがらみにとらわれず、「社会の常識」を基本にして、「外からの思い切った改革」に取り組んでいくつもりです。その場合の「社会の常識」としては、①山形大学はユーザーである学生のために存在していること、つまり、学生のために働くことが学長・理事及び教職員の最も大事な仕事であること、②多額の税金が投入されている以上、山形大学は社会に対して開かれている必要があり、国民に対する説明責任を負っているという2点を大切にしたいと考えています。この2点を判断の基礎に据えて、これからの大学経営に当たってまいります。

大学の基本的な役割は、「教育」、「研究」そして「地域貢献」の3つですが、私は、中でも「教育」、特に「教養教育」を重視してまいります。受け入れた学生の一人一人に、丁寧でキメの細かい教育を行い、「優れた教養」と「高い専門性」を備えた卒業生を社会に送り出していくことが、山形大学の最も重要なミッションです。私は、その実績を積み重ね、それが社会から高く評価されるとともに、卒業生からは、「山形大学で学んで本当に良かった。」と言ってもらえる大学造りを目指してまいります。

当面の仕事として、「意志決定のスピードアップ」と「事務手続きの簡素化」に取り組んでいます。数ヶ月以内には成果を出して、教職員の皆さんがそれを実感できるようにしたいと思っています。そして、新たに生まれてくる時間とエネルギーを、教員の皆様には、学生と向き合う時間を増やして教育の充実のために使ってもらい、また、職員の皆様には、学生に対する支援サービスの充実のために使ってもらいたいと考えています。

国立大学は「国立大学法人」となりましたが、私は、山形大学は法人化したメリットをまだまだ活かし切っていないと感じています。法人化したということは、自らのことは自らの判断と責任で決められるようになったということです。山形大学にとって良いと思うこと、山形大学がやりたいと思うことは、ためらわずに、先ずやってみようではありませんか。「失敗を恐れずにやってみる。」を基本にして、積極・果敢に行動していくつもりです。

山形大学がキラリと光る存在感のある国立大学として発展していけるように、全力を尽くしてまいります。これからの山形大学の進化にご注目頂くとともに、皆様の温かいご支援とご協力をお願いいたします。

国立大学法人山形大学長

結城章夫

山形の地域特性史く古代から近世までく

# 出羽山形は、 大都市だった かもしれない説。

山形の歴史を交易・交流という角度からみた場合

そこにどんなストーリーを読み取ることができるのだろうか。これまでの通説は本当に正しいのだろうか。

ここでは、大学院社会文化システム研究科文化システム専攻の教授・准教授陣が

共同で取り組んでいるプロジェクト研究

「交易・交流からみた出羽の歴史文化く山形の地域特性の歴史的形成に関するフィールド研究について紹介する。

メンバー4名がそれぞれの専門分野から山形の地域特性を考察。新たな史資料を手がかりに、

通説を変更したり、実証的に深めたり、

そこには、地域特性に関する意外な分析も……。

世界遺産登録をめざす上でも、観光事業の振興を図る上でも非常に興味深い見解や提言が示されている。

果たして山形はどんな地域だったのか。

古代から近世へ、歴史散歩へと出かけてみよう。



『湯殿山道中略図』安藤広重 山形大学附属博物館蔵  
三山道者(出羽三山への参詣者)や旅人、商人たちで賑わう山形城下。八日町から十日町の様子が活写されている。

平安京に都を移す

遣唐使の廃止

藤原道長が摂政となる

源頼朝が征夷大将軍となる

応仁の乱

桶狭間の戦い

関ヶ原の戦い



**山形市今塚遺跡出土  
墨書土器「王」**

(財団法人山形県埋蔵文化財センター蔵)  
「王」は朝鮮半島からの渡来人集団のことか。今塚遺跡から出土した大量の墨書土器は文字の内容がバラエティに富んでおり、平安時代の人がなぜ土器に文字を書いたのか、という謎を解く手がかりを与えてくれる。



**山形県遊佐町上高田遺跡  
出土木簡「畔越」**

(財団法人山形県埋蔵文化財センター蔵)  
米の品種名を書いて俵に刺したと思われる札。近世の有名な農書『清良記』に、稲の品種名として「畔越」がみえ、同じ品種名が平安時代から江戸時代まで連続と使われていたことが判明した。

**文殊菩薩騎獅像**

(永祿六年)  
最上義光の母・永浦尼が夫と我が子の安全と武運長久を祈願して刺繍したもの。宝光院住職のご理解により本学に寄贈された。製作者・制作年月がわかっているという点で極めて貴重な刺繍。



**人文学部の研究活動支援制度に  
採択されたプロジェクトとして  
平成16年度にスタート。**

この「交易・交流からみた出羽の歴史文化～山形の地域特性の歴史的形成に関するフィールド研究～」は、2004年度に人文学部に創設された研究活動支援制度の初年度に採択され、今年度で4年目となるプロジェクト研究。まず、その概要や目的、実施計画等について解説しておこう。このプロジェクトは、出羽山形、特に出羽内陸＝村山地域の地域特性が歴史の中でどのように形成・展開していったのかを交易・交流という視点から考察することを狙いとしている。中心メンバーは、本プロジェクトの研究代表者でもある日本近世史の岩田浩太郎先生、日本文学の菊地仁先生、日本宗教史の松尾剛次先生、日本古代史の三上喜孝先生の4名。それぞれの研究領域を踏まえて、出羽国府、出羽三山信仰、炭焼長者伝説、紅花商業などをテーマとして取り上げている。メンバーは、それぞれに地域調査などを実施し、これまでに14回の共同研究会を開催して成果を報告しあってきた。将来的に

は、各時代・各分野を貫き通すような出羽山形の地域特性をまとめていく考えだ。

**私たちが思っているよりずっと  
出羽山形は、豊かに発展し、  
国からも重要視されていた!?**

現代社会においては、鉄道や港の充実により、太平洋側地域の発展が目立つが、かつては北前船に代表されるように日本海側の交易・交流が盛んで活況を呈していた。特に、出羽内陸＝村山地域は、奥羽(東北地方)の中でも発展していた地域だったと言うのだ。東北の中では比較的降雪も少なく、自然環境や地理的条件に恵まれた地域で、稲作をはじめとする農作物の生産力が非常に高かったとみられている。加えて、環日本海の交流および日本海運・最上川舟運の充実、そして、出羽三山など山岳信仰の隆盛とも相まって、古来から経済的にも宗教文化的にも発展していた地域と推察される。そうした歴史的背景を受けて、近世に入ると紅花や青苧などを積み荷とする上方との交易が盛んになり、大商人たちが育つていった。



さらに、政治的にみても、かなり重要視されていたのではとの見方もできる。11世紀前半という奥羽の中では早い時期に摂関家領を中心に荘園の成立が広範に見られたことや中世奥羽の管領探題職であった斯波氏が配置されたからだ。さらに、その斯波氏の権力を継承し徳川家より奥羽の押さえとして期待された最上家は、57万石という大大名で、建設された山形城と城下町は東日本有数の規模をもち、当時としては大都市であったと考えられる。その最上氏の改易後ですら、武家人口は減少しながらも民間需要の成長に支えられて奥羽の中継商業地として発展を遂げたという。明治期には、大久保利通が子飼いの三島通庸を山形県の初代県令として送り込んできたことから山形を東北開発構想の要地として捉えていたと考えられる。

次ページでは、メンバーそれぞれの研究の中でもっとも興味深い点について、わかりやすく紹介している。また、来る10月20日には、「交流史からみた山形～地域史への諸提言～」と題して公開学術報告会を開催し、共同成果を報告するとともに広く人々に意見を求めることになっている。

島原の乱  
鎮国

### 宝光院所蔵御朱印

(寛文五年)

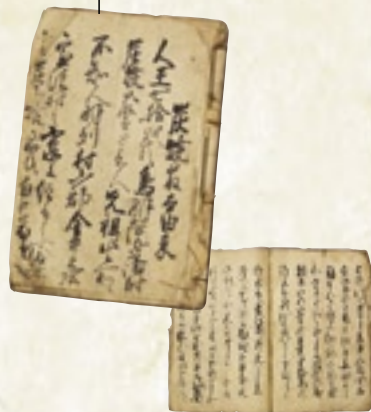
寛文五(1665)年、江戸幕府第四代將軍家綱が、宝光院に対して、中野村など寺領278石と境内地の所有を認めた文書。本来、朱印が捺印されていたはずであるが、写しということで黒印となっている。



かつて「宝光院」があったとされている山形中野界隈の絵図。ここは最上義光のふるさとであり、地元の寺をもっとも信頼できる寺として城下町を宗教的に守る意味で現在の八日町に移したのと考えられている。

徳川吉宗8代將軍となる

寛政の改革



### 炭焼藤太由来

(寛延三年に出来たといわれている) 寛延三年作製の原本そのものと厳密には断定しにくいですが、末尾の奥書に「寛延三年七月十一日」との記述がある。当該資料を見たにちがいない柳田國男もこの奥書を作製年次と信じていたと思われる。



### 三上喜孝

みかみよしたか ●人文学部准教授／専門は日本古代史。東京大学にて学士・修士・博士を取得、日本古代における文字文化習得過程など研究。著書に「古代文書論」(共著)「日本古代の貨幣と社会」などがある。

### 出土文字資料が物語る交流史。 平安の昔から人もモノも盛んに 出羽山形へとやって来た。

三上先生の専門は日本古代史。1000年以上さかのぼる奈良・平安時代が研究対象ということで文献も非常に少ない。ましてや山形の古代史となると、さらに文献は少ないだろうし、それを研究することにどんな意味があるのかと疑問視する人もいるかもしれない。ところが、意外にも山形の遺跡からは数多くの木簡や墨書土器(墨文字が書かれた土器)が出土しており、これまでの通説を覆す勢いなのだ。例えば、山形市北部の今塚遺跡からは、平安時代のものと思われる墨書土器が大量に出土し、そこには「雀」や「王」という文字が書かれている。前者は関東方面に多い集団名で、後者は朝鮮半島などからの渡来人に由来する集団

名と考えられる。つまり、かなり早い時期から関東や朝鮮半島など各地から集団で山形に移住して来ていたことがわかる。それによって出羽山形の生産力が高まり、古代出羽国府の内陸移転が従来より早かったのではないかと説に結びついていく。



また、庄内の遊佐町の遺跡からは「畔越」と記された平安時代の木簡が出土。これは米の品種を示す言葉で、さまざまな品種の登場は江戸時代とされてきたそれまでの通説を覆す出土品として話題となった。平安時代にはすでに都でたくさんの品種が開発され、出羽山形にも伝わっていた。古代の豊かな交流史を窺い知ることができる。



### 菊地仁

きくちひとし ●人文学部教授／専門は、日本古代中世文学・民間説話。特に、西行伝説をはじめとする歌人の説話・伝説に興味を持ち研究。著書に「真銅本「住吉物語」の研究」(共著)「職能としての和歌」などがある。

### 「炭焼藤太伝説」にみる 民間伝承の不思議と出羽山形の交流。

菊地先生の専門は日本古代中世文学だが、今回このプロジェクトに参加したのは、むしろ民俗学的な関心から。平安・鎌倉・室町時代の歌人の伝説や説話への興味から民間伝承についても研究。プロジェクト名に「交流」という言葉が含まれていることでより強く引かれたという。表題の「炭焼藤太伝説」に行き着ききっかけとなったのは、「あこやの松伝説」を研究するうちに「炭焼藤太伝説」との共通点が多いということがわかったから。貧しい炭焼が、都から姫様を妻に迎えて大金持ちになったという、全国的にさまざまなバリエーションをもつ「炭焼長者」伝説だが、東北地方では独自の展開をしているという。その点はすでに柳田國男が指摘しており、その際に柳田が見た可能性の高い資料「炭焼藤太由来」が本学附属博物館の収蔵品の中から見つかるという因縁めいたものにも後押しされた。

福島・宮城・山形に伝わる「炭焼藤太伝説」を比較しながら、街道を介して伝承されたであろうそれらの伝説の足取りを探っている。伝説を運んだのは誰なのか。修験者か、お伽衆と呼ばれた大名付きの語り部か…。今後は、宮城県側の資料を発掘することで

天保の改革

ペリ来航

大政奉還

廃藩置県

日清戦争



**大福帳** (安政三年)

山形市三日町小嶋源兵衛家の大福帳。同家の商業帳簿として作成されたもの。売り先別に商品や金額が記入されている。小嶋家は、福島方面の各地に得意先を持ち、上方や全国の物資を売り込んでいた。



**大沼家店蔵** (明治七年)

⑧長谷川家と提携し、仙台藩領に商業ネットワークを張り巡らしていた企大沼正七家(宮城県村田町)の店蔵と門。紅花商人として活躍。現在は「村田商人やましよう記念館」となっている。

かつての⑨長谷川吉郎治家の土蔵(山形市十日町)。左図の赤点の位置にあたる。この界隈は、通称「長谷川通り」と呼ばれていた。

**羽州山形城図** (江戸中期写)

東日本有数の規模であった山形城下の武家地や町人地、寺社の配置が描かれている。

山形との関連を明確にしていきたい考えだ。



**松尾剛次**

まつおけんじ ●人文学部教授 / 長崎県出身。専門は日本中世史、特に宗教史。鎌倉・奈良を中心に研究。山形大学への着任を機に山形の宗教世界を明らかにしたいと研究を始める。国内外の他大学でも客員教授を歴任。

**本プロジェクトの2大成果、「文殊菩薩騎獅像」の再発見と中世羽黒修験の古文書発見。**

松尾先生は、宗教史的観点から出羽山形の地域特性に迫っている。これまでの研究成果として特筆すべき点が2つあるという。

ひとつは、山形市八日町にある「宝光院」が最上義光の出身地である山形市中野から移されたことから、その重要性を直感し、所蔵の古文書853点の整理・分析を行なったこと。その過程で、最上義光の母と推定される永浦尼が義守・義光父子の安全と武運長久を祈願して刺繍した「文殊菩薩騎獅像」を再発見。その存在は認識されていたが、これほど歴史的価値の高いものという認識はまったくなかったのだ。「文殊菩薩

騎獅像」は、宝光院のご厚意により本学に寄贈され、現在京都にて修復中である。

もう一つの成果としては、900点にもなる羽黒修験に関する中世以降の古文書を発見できたこと。羽黒修験のピークは江戸時代と捉えられがちだが、それ以前は熊野修験にも並ぶほど勢いがあったのではとの松尾先生の仮説を証明する資料が発見されたことになる。中世羽黒修験の霞組織は、東日本各地に広がり、熊野修験の西24カ国にも勝る東33カ国にも及んでいたことの実証研究をすすめている。



**岩田浩太郎**

いわたこうたろう ●人文学部教授 / 専門は日本近世史・日本経済史。江戸・大阪の研究を経て、山形城下町の商人や村山の豪農について研究。本プロジェクトの研究代表者。出羽山形を「奥羽の商都」と位置づけ、その立証にあたる。

**大仕掛けな商業ネットワークを築いていた山形商人。今に息づく開放進取な気風。**

紅花や青<sup>あおそ</sup>苧による上方との直接取引で山

形商人は奥羽の中でも抜きん出た存在であった。江戸後期における山形城下町の商業の中心地は十日町。特に、長谷川吉郎治は、幕末から明治にかけての山形最大の商人と言われている。地元の古老の間では、山形が商人の町として繁栄していたことは言い伝えられているが、その資料による裏づけはまだなされていなかった。岩田先生は、その裏づけ作業こそが本プロジェクトの目的のひとつと捉えている。長谷川吉郎治の取引ネットワークは、実に広範におよび、さらに奥羽の要所要所に仲買商を置き、紅花や米、上方からの全国物資、行き帰り双方での商いを展開。村山地域には大藩がなく、山形城下町の商人は自由に経済活動ができたという政治的条件にも恵まれ、開放進取な気風で奥羽有数の商人となり得たと見られる。

明治十年代には紅花交易は衰退したものの、素早く生糸に転換することで山形商人の繁栄は明治中期まで続いた。その後は、鉄道や港の整備が太平洋側にウエイトが置かれるようになり、状況は一転するが、新しい顧客の開拓や新商品に挑む気質は今に受け継がれているという。

人文学部

Faculty of  
Literature and Social Sciences

## 公開講座

### 「理想の家族はどこにあるのか？」を開催



人文学部では、6月18日(月)から6回にわたって、公開講座「理想の家族はどこにあるのか？」が開催され、62名が受講しました。近年、離婚の増加や少子化、高齢者扶養等をめぐって、家族の危機や崩壊が盛んに言われます。この講座では、柳田國男の研究で知られる東北学院大学岩本由輝教授をゲスト講師としてお迎えし、文化人類学、日本古代史、西洋経済史、東洋史、社会学という人文学部の各スタッフが、それぞれの専門の立場から、家族について講

義しました。受講生は、1,300年前の古代から現代までの日本の家族の多様性と、ペルーやイギリスやモンゴルという世界各地の家族の多様性に驚き、長い歴史的視野と広い世界史的視野で、あらためて今の日本の夫婦や親子の関係に思いを及ぼすことができましたようです。仕事帰りの人を意識した平日夜間の開講でしたが、遅くまで熱心に質問を寄せる受講生の姿が目立ちました。

地域教育文化学部

Faculty of  
Education, Art and Science

## 学生歌「みどり樹に」CDを制作、学長に贈呈



去る5月22日(火)、教育学部・地域教育文化学部の学生が制作した山形大学学生歌「みどり樹に」のCDが、学長に贈呈されました。

このCDは、東京サテライトの企画で藤野祐一教授の指導により、教育学部・地域教育文化学部音楽科の学生有志合唱団の皆さんが制作しました。

贈呈式では、制作にあたった学生を代表して教育学部4年の新井健士さんから「このような機会を与えてもらい光栄です。今

後も学生一同、音楽の道により一層精進していきたいと思っております。」とのあいさつがありました。「みどり樹に」は現在も入学式等様々な式典で歌われている学生歌で、このCD完成を機に、在校生の皆さんや卒業生の皆様はもちろん、市民の皆様にとっても、より身近な大学のシンボルとなることが期待されます。

このCDは東京サテライトとインフォメーションセンター(小白川キャンパス)で配付しています。

理学部

Faculty of Science

## 出雲崎沖からの古木の年代について



出雲崎沖にて出現した古木

櫻井教授、郡司准教授、門叶准教授の電磁気研グループは、過去の宇宙線強度変動と太陽活動を調べるため古木年輪中の放射性炭素 $C^{14}$ 濃度変動の研究を行っています。2,600年前の鳥海山の埋もれ木などを使って研究成果を発表してきました。今回、新潟県中越沖地震の発生後、出雲崎沖の震源地付近の海底から大量の古木(写真)が出現したため、7月30日(月)に現地を訪れ3点の資料提供をうけ、試料について放射性炭素年代の測定を8月5日(日)に

行いました。年代測定は、試料の調製を山形大学理学部で行い、 $C^{14}$ の測定は東京大学MALTのタンデム型加速器を使って加速器質量分析法により行いました。各試料の $C^{14}$ 年代は、4,500年から5,400年の数値を示し、年代を明らかにすることができました。今回の結果は、浮き上がってきた原因を調べるにも有用な情報となると考えられます。



医学部  
Faculty of Medicine

## 「メディカルスキルアップラボラトリー」がオープン

医学部では、キャンパス内にメディカルスキルアップラボラトリーを設置し、6月26日(火)にオープニングセレモニーを行いました。

このラボラトリーは、文部科学省の特別支援事業で、医療事故を予防するための技術習得を、高性能の人形を使ってトレーニングできるシステムとなっています。訓練装置10基を約1億円かけて設置したラボラトリーでは、成人や乳児の人形に様々な患者の状態を再現し、内視鏡手術や超音波

検査、蘇生術などを実践的に学ぶことができます。

トレーニング時は、附属病院の医師がインストラクターとして、本学部の学生や附属病院の研修医、医師の指導に当たります。また、学外の医師からも利用できるようにすることで、学生が患者に接する診療参加型の臨床実習の安全性の向上のみならず、研修医ほか、学外の医療関係者等、県全体の医療の向上及び安全確保につなげ、若手医師の県内定着にも貢献すると期待しています。



トレーニングシミュレーターによる研修風景

## 工学部OB 講義 「企業を担う先輩達」を開講

工学部を卒業され、企業の重鎮としてご活躍されている方をお招きして「企業を担う先輩達」を平成19年度前期に開講しました。

本講義は、同じ大学で学んだ先輩の大学時代、会社の技術、求められている人物等のお話を伺うことによって、有意義な学生生活を考えることを目的としています。

本年度は山形放送(株)園部稔取締役社長、(株)タカラの創業者で、NPO法人ライフマネジメントセンター佐藤安太理事長等13名の方に講義をいただきました。

社会の荒波を乗り越えてきた大先輩方の貴重な一言に、受講生は毎回熱心に聞き入り、今後の人生の指針となる言葉として胸に刻んでいたようです。

また、先輩方も恩師・同期との再会や久しぶりに訪れた母校に感慨を覚えていらっしゃいました。

なお、後輩への激励の色紙や代表的な製品を、工学部4号館講義棟1階のミニミュージアムに展示しておりますので、ぜひご覧ください。



工学部  
Faculty of Engineering

農学部  
Faculty of Agriculture

## 「ショウロ」の資源活用研究を始めます

ショウロはかつて庄内砂丘のクロマツ林でも親しまれた、クロマツと共生関係にあるキノコです。ところがクロマツ林床の手入れが行き届かなくなった今、全国でも山形県庄内地方でも「幻のキノコ」になってしまいました。

地元ショウロの生態調査を進めてきた農学部が中心となり、ショウロの復活をめざして、今年の6月、県庄内総合支庁、酒田森林組合などと「地域森林資源活用研究会」を発足しました。今後3年間、ショウロ

の栽培技術の開発と食品機能性、クロマツとの共生関係についての研究を進めます。

そうした研究は、全国的な問題になっているクロマツ林の衰退を止める可能性を生み、庄内クロマツ林の保全ボランティアの方々を励ますことにもつながるでしょう。ショウロの栽培研究が進めば、特産の食材として活用することもできます。

農学部では、地域の産官学民と協同し、「ショウロ」を通して、全国のクロマツ林の復活を図ろうとしています。



**助手時代にお茶の研究をサポート。  
以来、地元の伝統食材を生かした  
さまざまなお茶を調査・研究。**

東京の大学でお茶の研究を専門とする教授のもとで助手を務めていたことをきっかけに、田村先生はさまざまなお茶に関する研究を中心に取り組んできている。アミノ酸、カテキン、ギャバなど、体にいいとされているお茶の成分に着目、そのより効



助手時代に田村先生も執筆に携わったというお茶を使った料理本。飲むだけではなく、お茶の楽しみ方、味わい方が満載。

果的な摂り方などを紹介する本やお茶を使った料理の本などにも執筆協力をしてきた。その後は、それぞれの地域で古くから体にいいとして珍重されている植物を分析研究。その成分分析を通して効果の信憑性や、望ましい摂取方法などを解明している。

本学に着任する前に在籍していた大学が米沢にあったことから、ここでは「ウコギ茶」の研究に取り組んできた。ウコギは、上杉鷹山公が奨励した食糧にもなる生け垣として知られている米沢地方の優れた伝統食材。「地元で育った食材を食し健康になる」そんな昔からの考えに田村先生も共感する部分があるようで、赴任先で注目すべき食物をチェックしては、それらを研究材料として取り上げているのだという。現在田村先生が関心を寄せているのは、おとぎり草。

**成分の分析にとどまらず、  
体内に入ってどう作用するか、  
そこまで守備範囲とする学問。**



成分を分析するための装置。調べたい物を液状にして流し入れ、光を当て時間を追って成分の変化をチェック。

研究室を訪ねたときも、田村先生は「おとぎり草茶」を煮詰めてその成分を分析しながら、口内や腸内、どの段階でいちばん効果が現れるかなどのデータ収集を行っていた。田村先生はさまざまな食物、植物の成分を分析するだけでなく、それらが体内でどのように作用するかを追跡調査するまでを研究分野としている。また、学校や病院の給食のように大量に調理する場合、家庭料理との違いに留意しておいしく作るコ

**地域の伝統食材に着目、  
ただ今、おとぎり草茶を研究中。  
その成分は？ より効果的な摂り方は？**





### 田村朝子

たむらあさこ ●地域教育文化学部准教授 / 大妻女子大助手時代からお茶を研究。1988年には日本家政学会奨励賞を受賞。その後、米沢女子短期大学を経て本学へ。ウコギやおとぎり草など、赴任地にゆかりのある植物に引かれ、研究を続けている。

ツを指導するなどの栄養士としての仕事にも取り組んでいる。

ただいま研究中のおとぎり草は、オトギリソウ科オトギリソウ属の植物で止血剤などとして使用されていた民間薬。その成分としては、ポリフェノールやギャバなどが含まれており、血圧や血糖値を抑える効果が期待できるということで「おとぎり草



市販されているティーバッグで入れた「おとぎり草茶」。苦そうなイメージだが、実際は、思ったほどのクセもなく、飲んだ後、口の中にはスツとした爽快感すら感じられた。

茶」はメタボリックシンドロームが気になる世代におすすめ。田村先生の研究室で学ぶ7名の学生のうち、一人が先生とともにおとぎり草の研究をメインに行っている。

**栄養士を養成する  
4年制大学に大きな期待、  
病院からは共同研究の要請も。**

この食環境デザインコースは、山形県内ではじめての栄養士の資格が取れる4年制大学ということで、当初から周囲の期待は大きかった。特に山形市内の病院からは、患者に合わせたさまざまな献立づくりや床ずれを改善するための栄養研究などへの協力要請が寄せられている。学生の中には、将来病院の栄養士をめざしている者も少なくないため、実践で学ぶ機会が与えられるということは願ってもないこと。就職後、即戦力として活躍できる人材の育成にも結びついているようだ。

田村先生自身も「食」のアドバイザーとして学外で活躍するケース



尾花沢市の業者によって実際に市販されているティーバッグの「おとぎり草茶」と干して乾燥させたおとぎり草。ペットボトルで販売されている冷たいおとぎり草茶もある。食事の直前に飲むとより効果的らしい。

も多い。例えば、幼稚園に出向いてお母さんたちにお弁当づくりのアドバイスをしたり、食べること、噛むことの大切さを説明したり、県が発行する食育読本の解説文を担当したり、まさに食育の最前線の活動が目立つ。栄養面でも情操面でも「食」の重要性が見直されている今、田村先生が必要とされるシーンはますます増えてきそう。

## 食育やメタボリックなど、「食」への関心が高まる今、食環境デザインへの期待も高まる。

田村朝子 地域教育文化学部生活総合学科准教授

平成16年に国立大学が法人化されたのを受けて、翌平成17年から教育学部は地域教育文化学部へと改組。食環境デザイン、生活環境科学、生活情報システムの3つのコースからなる生活総合学科が新たに誕生した。今回訪れたのは、生活の基本である「食」をテーマに、さまざまな角度から研究・探究し、食生活の向上や新たな食文化の創造に貢献できる人材を育成する食環境デザインコース、田村朝子准教授の研究室。お茶を専門とする田村先生が現在、主に取り組んでいるのがおとぎり草茶の研究。さらに、県や病院、幼稚園などでも食と健康に関するアドバイスを行っている。

【地域教育文化学部】  
研究室訪問

# 山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、  
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。  
現役山大生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 「昨日も児童館の子どもたちがこの畑に来たんですよ」と楽しげに話す小笠原さん。にこやかに話しながらも手元はしっかり農作業。しその葉とエゴマの葉を手際よく摘んで、お土産にと持たせてくれた。

2 消費者交流芋植えということで、児童館の子どもたちがジャガイモの種芋植えを体験しているところ。小さな砂場用スコップで穴を掘って種芋を植え、ちいさな名札を立てていき、夏休みにはワイワイ芋掘りを楽しんだ。

3 ネギはチェーンポットに播き、1カ月半育苗して「引っ張り君」という機械で一気に定植。GW前に植えて、秋収穫。延々と何十枚も土を詰めて種をまき、土をかぶせて水をやり、育苗ハウスに並べていくのは結構大変。

## 農業にはさまざまな可能性があるかと確信。 自分なりの農業スタイルは譲れない。

小笠原史子 農業

私たちの健康の源はやはり食べ物。そんな思いから農業を志した史子さんは、農学部のある鶴岡市に初めて降り立った時、「空が広いな。ずっとここで暮らしたいな」と直感したという。その思いは変わることなく、卒業後も庄内に残り、1年間の農業研修期間を経て新規就農に踏み切った。女性一人での就農は難しいだろうと、周囲は誰もが農業法人への就職や農家のお嫁さんになることを勧めた。しかし、史子さんには理想とする農業スタイルがあり、それを実現するために自ら営農することを選んだ。研修先の農家から土地とハウスを借りて、枝豆やネギ、トマトなど数十種類もの野菜作りを一人でやってのけた。順風満帆とはいかないまでも、ずっと一人でやっていけるという

自信と手応えを感じ始めていた。そして、就農から5年、「一生独身でもいい。農家の嫁にはならない」そう考えていた史子さんに大きな転機が訪れた。農業後継者でありながら、史子さんを農家の嫁としてではなく、パートナーとして一緒にやっていきたいという男性が現れたのだ。三川町から海と山に囲まれた鶴岡市三瀬に移り住み、子どもにも恵まれた。パートナー家族の理解もあって、結婚後も史子さんはこれまで同様に自分の農業スタイルで野菜作りに励んでいる。育ち盛りの子どもたちにおいしい野菜をたくさん食べてほしいと児童館に野菜を提供したり、直売所での販売や個人販売にも力を入れている。収穫の喜びを実感してもらうために芋掘りなどの農業

体験も受け入れている。農業には、実にいろいろな可能性があってもおもしろいと語る史子さん。力仕事も多く、天候に左右される、確かに大変な仕事ではあるが、「本気でやって大変じゃない仕事なんてない」が持論の史子さんにとって農業の大変さは何も特別なものではないらしい。

大学時代は、大好きな山登りも存分にできたし、農業に関する知識を得る術を身につけることもできた。庄内には、同じ農学部の卒業生が少なくない。史子さんが野菜を提供しているユースホステルの若きオーナー夫妻も農学部出身。大学時代にお世話になった先生との交流も続いている。史子さんのまわりには、さまざまな山大ネットワークが息づいているようだ。

信念の成果

今回のランナー:



小笠原史子

おがさわらふみこ●東京都出身。2000年度農学部卒業。山形県の農業実習生として鶴岡市にて1年間の研修を経て就農。農業後継者との結婚後も「農家の嫁」としてではなく、自分が目指す農業を実現すべく頑張っている。



大塚裕絵

おつかひろえ●富山県出身。東北芸術工科大学と共同で取り組んでいる「ヤマガタ蔵プロジェクト」副代表。他大学の学生や蔵主との交流に多くを学んだ。これを機に、地元富山県の蔵にも興味を持つようになった。

## 「蔵」を通して生まれた、さまざまな人々との交流。 富山に帰っても、時折山形の蔵を訪ねたい。

大塚裕絵 教育学部4年

最初は先生に勧められて、イベントも楽しそうだしと軽い気持ちで参加した「ヤマガタ蔵プロジェクト」。それが今となっては、大塚さんの大学生活の後半を大いに盛り上げてくれる思い出深い活動となった。その「ヤマガタ蔵プロジェクト」とは、2003年から東北芸術工科大学の学生たちが中心となってスタートさせたもので、山形市内に現存している蔵の再生を目指して、その修復や新たな活用方法について蔵主さんとともに考え、さまざまな取り組みを行っている。山形大学の学生がこのプロジェクトに参加するようになったのは昨年からです。大塚さんたちの学年が第一号。3年生の5月にイベントへの参加から始まった。2年目となった今年は、本格的にミーティ

ングから参加し、大塚さんは副代表を務めている。6月には「キャンドルナイト蔵ツアー」というワークショップの代表としてイベントを運営し、清々しい充実感を満喫した。

プロジェクトの活動を紹介するフリーペーパーを配布するために蔵主さんを訪ねたり、蔵の再生方法を一般有志のみなさんと語り合ったり、イベントに参加してくれた子どもたちと仲良くなったり。「蔵」を通して本当にたくさんの人々と出会うことができた。このプロジェクトに参加していなければ決してふれあうことのなかったであろう人々。さらに、芸工大の学生たちとの交流も大きな刺激になったという。同じ大学生でも芸術系の大学ならではの感性やエネ

ルギーをととても新鮮に受け止めたようだ。

このプロジェクトで「蔵」の魅力に触れた大塚さんは、今までほとんど興味のなかった蔵への関心が俄然高まり、ふるさと富山に帰ったときも蔵を興味深く観るようになった。同じ蔵でも山形と富山では造りや意匠に違いがみられ、そんなところにも地域性があるのだと気づかされた。この秋には、副代表の任期を終えて次の学年へとバトンを渡す。そして来春には卒業し、地元富山で就職する。「卒業してもまた山形に来て、懇意にさせていただいた蔵主さんを訪ねたいですね」と静かに語る大塚さん。「ヤマガタ蔵プロジェクト」との出会いが、大塚さんの大学生活をひと回り豊かなものにしてくれたに違いない。

活動の成果



1

「ヤマガタ蔵プロジェクト」を通して交流が生まれた蔵主さんと談笑する大塚さん。夏でも蔵座敷の中は心地よい涼しさ。夏休みにふるさと富山に帰った話など、さまざまな話題で話が弾み、終始和やかムードだった。



2



3

「ヤマガタ蔵プロジェクト」の活動拠点のひとつにもなっている「香味庵まるはち」の外観。市内中央に歴史あるその雄姿をとどめている。蔵座敷では漬物料理などが響かれ、風情あふれるもてなしが好評のようだ。

大塚さんが企画代表を務めた「キャンドルナイト蔵ツアー」のワンシーン。参加者みんなで作ったカラフルなキャンドルに火がつくと、蔵はとても幻想的な雰囲気。夜の蔵は昼とはまた違った魅力を放っていた。

ヤマガタ蔵プロジェクトブログ <http://www.kura-project.com/>



## 山大のある風景

シリーズ 最終回

小白川キャンパス

教養教育を行うとともに、文学部、地域教育文化学部、理学部の置かれている小白川キャンパスは山形大学の中核。ほとんどの学生がここから大学生活をスタートさせる。かつては田園地帯に忽然と学舎が現れるといった光景も、いまではすっぽりと市街地の中。小白川キャンパスを中心に学生の街、文教の街として着実に発展を遂げたエリアといえる。初夏の新緑、秋の紅葉、イチヨウ並木が人々をキャンパスへと誘う小白川キャンパスが「山大のある風景」最終回を飾る。

学部を越えてだれもが集う中心キャンパス、  
その歴史や思い出もモノクロームから天然色へ。

# YAMAGATA

山形

1 山形大学の前身、山形高等学校の校舎全容。撮影年度は不明だが、昭和10年頃と見られる。人家はまばらな田園地帯だ。2 A地点の文理学部時代の山形大学正門。山形高等学校時代とほとんど変わっていない。3 B地点のテニスコートから見た校舎。左から講堂、図書館書庫、本館。4 C地点にあたる学寮。食堂、売店、理髪店なども完備されていた。5 当時の教室と先生、学生たち。6 大正末から昭和初期頃の山形駅。山高生の壮行会シーン。現在の山形駅舎はこの時から3代目。7 大正末から昭和10年ごろの七日町。手前が商店街で、市役所、裁判所、県庁といった官庁通りへと続いている。一番奥が文翔館(旧県庁)。



2



3



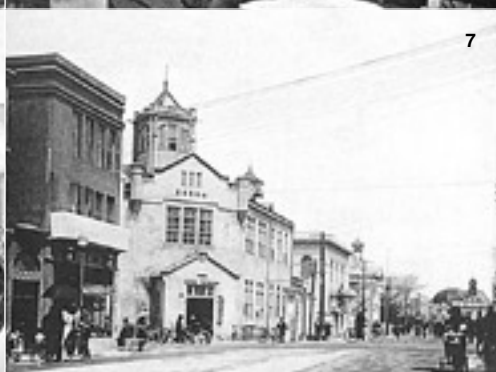
4



5



6



7

### 山形中学校に間借りしてスタート 新たな人材育成に熱い期待。

山形大学の前身となる山形高等学校が設立されたのは大正9(1920)年。いわゆるナンバーズクール8校に続く高等学校が増設された時期です。山形県では、設立の3年前から学校敷地や建設資金の寄付を申し入れて誘致運動を行っていました。国の政策とも合致して、大正8年の新潟、松本、山口、松山の各高等学校に次いで、翌大正9年4月に山形、水戸、佐賀に各高等学校が新設されたのです。山形高等学校が建設された小白川は、その当時はまだ東沢村でしたが、山形市立第五小学校のすぐ東側にあって市街地とは地続き、山形市内といってもいい場所でした。緑の千歳山と盃山を背景とし、馬見ヶ崎川を間近に望む、視界を遮るもののない本当に美しい景勝の地。学生たちが勉学に励む環境としてはすこぶる好ましいと、当時の校長先生は大絶賛したものです。

しかし、9月6日からの授業には校舎の建設が間に合わず、山形中学校(現山形東高等学校)に間借りしてのスタートとなりました。開校記念の行事は、公式的な式典に加えて、小学校児童による旗行列や全市あげての提灯行列などが盛大に繰り広げられたということで、当時の山形市民の山形高等学校に対する期待のほどを窺い知ることができます。正面が「高」の字を模して作られた木造2階建ての新築校舎が完成し、移転したのは大正10年1月のことでした。山形高等学校には、全国から優秀な先生や学生が集まり、教授陣は袖の広い黒いガウンを着用、学生たちの間ではナンバーズクールで定番化していた朴菌の下駄に腰手ぬぐいの弊衣、破帽にマント姿というのが流行っていました。自由闊達でさっそうと闊歩する山高生は女学生たちのあこがれの的

だったようです。

そんな古き良き時代から一変、戦時色が強まり、山形高等学校にも押し寄せる軍事化の波。そして、敗戦。混乱の中で再出発を余儀なくされた山形高等学校は、紆余曲折を経て昭和24（1949）年に山形大学として開学。社会環境は目まぐるしく変遷を遂げたものの、



小白川キャンパスのシンボルともいえるイチヨウ並木。眩しいほどにキラキラと輝く新緑の季節もまた見頃。

小白川周辺の環境は、大学に改組された後もしばらくは大きな変化もなく山形高等学校設立の頃のまま、千歳山の麓まで人家はほとんど見られなかったといえます。

### ますます地域に開かれた大学へ、 人々と知識や感動を共有したい。

山形高等学校として設立した当初は、人家がまばらな田園地帯だった小白川地区も木造だった校舎も、近年ではすっかり様変わり。大学キャンパス内で往時の姿をとどめているのは、数カ所の石垣と笹堰ぐらいではないでしょうか。周囲にはビル群がひしめき合うようになり、大学自体もモルタルの校舎から鉄筋コンクリートの校舎へ、そしてインテリジェントビルへと変貌を遂げています。

小白川キャンパス前の通りは、学生街ならではのショップも点在し、学生たちが闊歩する姿はもうすっかり風景の一部。また、文教の街としてのイメージが定着し、子育て世代があこがれる住宅街としてもその人気はもう不動のものようです。キャンパス内には、博物館や天文台など、広く一般の人々にも開放されている施設も多く、学生のみならず世代を越えた学びの場として親しまれているようです。

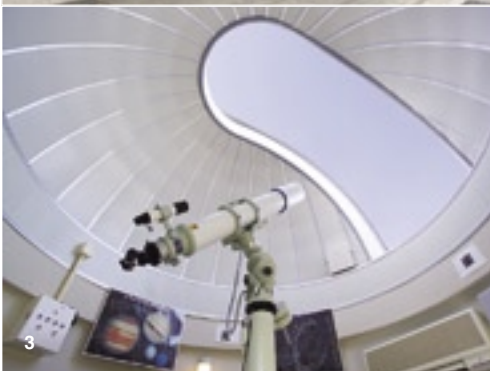
平成16年の法人化にともない、山形大学はそれまで以上に地域との関わりを大切に考えるようになってきています。山形高等学校から山形大学へ、市街地の真ん中でずっと学舎であり続ける小白川キャンパスは、ふるさとの知的風景として人々の心の中に刻み込まれていくことでしょう。



1



2



3



4

## 1920-2007 山形高等学校から国立大学法人山形大学へ

1 山形大学、小白川キャンパスの正門。2 学生たちが集い語らう、木陰が心地いい大学会館前の広場。3 理学部校舎内にある天文台は、広く市民にも公開されている。星空案内人による星空・宇宙のガイドツアーが人気。4 附属図書館の3階にある附属博物館も一般に公開されている。歴史、民俗、美術など収蔵品も充実。5 現在の山形駅前。6 山形の中心商店街七日町は、小白川キャンパスのすぐ近く。7 左ページの写真1のおよそ70年後の小白川キャンパスの航空写真。周囲にひしめく住宅の様子に市街地化が著しく進んだという印象を受ける。大学の校舎も随分立派になった。



5



6



7



## 山大のある風景

シリーズ 最終回

小白川キャンパス

小白川キャンパス内を流れる「山形五堰」のひとつ、笹堰。ここだけ時間が止まったように昔のまま。数年前からホテルが見られるようになった。

## 時の流れの中で移り変わる風景と、決して変わることはない情景そして山大の精神。

**80年以上の時を経て、山形大学を取り巻く環境、そして風景は大きく変貌を遂げ、さまざまな人材が巣立っていきました。その様をじっと見つめてきた昔ながらの情景と、そこに息づく揺るぎない山大の心を求めて、改めて小白川キャンパスを散策してみました。**

大正10年に新築校舎が完成して以来、ずっとこの地で学生たちを受け入れ、さまざまな経験と学びを提供してきた山形高等学校、のちに山形大学。場所こそ変わらないものの、校舎は新築・改築が繰り返され、開校当時をしのぶことは難しくなっています。どこか往時をしのばせてくれる場所があればと山形高等学校および山形大学の同窓会である「ふすま同窓会」を通じて、山高時代を知る人物に尋ねたところ、山形大学の構内を流れる笹堰と、教養棟へと続くスロープの両側にわずかに残っている石垣ぐらいではないだろうかということでした。笹堰とは、約400年前に時の山形城主が山形城濠への水の供給と生活用水や農業用水の確保の目的で馬見ヶ崎川に5つの取水口(堰)を設けた山形五堰のうちのひとつを指します。最近、この笹堰でホテルが見られるようになったということで話題になっているせせらぎです。

また、「ふすま同窓会」からは、こんな興味深い話題も提供されました。かつて、山形高等学校時代に田中三四郎という物理の先生がいて、その人物が夏目漱石の小説『三四郎』の主人公の名前の由来となったのだというので

す。その真偽のほどは定かではありませんが、山形高等学校に田中三四郎という先生がいたことはまぎれもない事実で、大学構内に建つ山形高等学校記念碑は、20数年間にわたり教頭を務めたその田中先生の揮毫となっています。

構内でその他の石碑に目を向けると、最も新しいものとしては今年の夏に建立されたば



田中三四郎先生

かりの草木塔の碑があります。碑文は、「草木塔の心 自然と人間の共生」。自然を畏れ敬い、自然の恵みに感謝し、草木の命さえいとむ山形県置賜地区を中心に信仰された独特の文化と「自然と人間の共生」という山形大学の理念を融合したもの。自然豊かな山形県全域をフィールドとする山形大学だからこそ自然に対する敬意はより深く、と教えてくれているのでしょうか。6回シリーズで巡った山大のある風景、これからもその風景のさまざまな変化や変わらぬ意志を見守り続けていきたいものです。



1



2



3

1 教養教育1号館の裏手に建つ3つの石碑。いずれも「ふすま同窓会」関係の記念碑で、中央が山形高等学校記念碑。2 山高記念碑の裏面には記念碑の文字が田中三四郎先生の揮毫であることが記されている。3 この夏、人文学部棟南側に建立された草木塔の碑。文中の写真は、物理学者で山形高等学校の教頭を20年以上務められた田中三四郎先生。



## 1 | 米国コロラド大学ボルダー校東アジア教育プログラム代表団と交流

6月30日(土)から5日間に渡り、コロラド大学ボルダー校東アジア教育プログラムの職員とコロラド州の小中学校教員14名が、日本研究ツアーで山形を訪れました。今回の訪問は昨年に続き2回目となります。ツアーの目的は、現在コロラド州の小中学校にて児童文学を通じて東アジアのことを教える教員が自ら日本事情を視察し、米国人児童の東アジアへの理解を深めようというものです。一行は山形の他、東京、広島、京都、滋賀、横浜、



遠藤副学長を囲んだ懇談会にて

鎌倉も訪れました。

山形到着後まず、一行のうちコロラド州小中学校教員11名が2泊3日で市内小学校児童宅等にホームステイしました。翌2日には14名全員が蔵王第一小学校にて学校体験をし、吉田校長を囲んだ懇談会では、本学国際センター職員を交え、日米の小学校教育事情について活発な意見の交換が行われました。3日は、国際センター及び市職員の案内で、山形市立第6中学校生徒5名を加え、霞城公園など市内を巡った後、小白川キャンパスまで徒歩で移動し、遠藤副学長、国際センター・地域教育文化学部教職員との懇談会に参加しました。同日行われた共同シンポジウムでは、同学部竹田教授・河野教授による武道及び音楽の講演と実演、及びコロラド州教員2名による同州小中学校の東アジア教育についての紹介がありました。歓迎会では仙道学長を始め、本学学生及び教職員が参加し、終始



共同シンポジウムにて

英語での歓談が行われ、学生の花笠踊りが交流に華を添えました。4日は、地域教育文化学部名子教授と、同学部学生3名とともに山寺を訪れ、名子教授による芭蕉解説、芭蕉記念館見学、連句大会などの学術・文化交流が行われました。

最後に、今回の交流実績により米国教育省から研究ツアーへの補助金を獲得し、来年も山形を訪れるとのことで、コロラド大学及び同州初中等機関との今後の益々の交流の発展が期待されます。

## 1 | 学生企画“健康夏祭り&キャンドルナイト”を開催

7月9日(月)、10日(火)の2日間、OH, ONE!? (山形大学生協学生委員会)主催による健康夏祭り&キャンドルナイトを開催しました。

健康夏祭りでは学生のために、酒が飲めるか飲めないかの体質を判定する「アルパチ」や、肺の汚染度を調べる「やにけん」などの健康に関するイベントを開催。暑い夏に負けない元気をつけてもらおうと様々な焼きそば、和風パフェなどの屋台も登場し、大盛況となりました。

また、今年はエコのコンセプトの下に、初のキャンドルナイトも開催しまし



屋台も大盛況

た。キャンドルナイトは、電気を消して、キャンドルに明かりを灯そうというキャンペーン。屋台などで出たゴミの分別もしようとゴミ回収ボックスも設置しました。中庭に並べられた1,000本のキャンドルは、音楽サークル「とまり火」とアカペラサークル「Smile」の競演と共に訪れた学生を魅了しました。

OH, ONE!?代表の中根慧さん(地域教育文化学部3年)は「試験期間ということで時間のやりくりも大変でしたが、仲間達と“気合い”で乗り越えられました。そういった意味でも今回の件で一緒に企



“ECO”Tシャツを着てゴミを分別する学生



中庭で輝く1,000本のキャンドル

画を進めて頂いた方々には本当に感謝しています。結果として、サークルを越えた人の輪が広がって良かったです」と語り、キャンドルナイトを実行した平方慶太さん(教育学研究科)も「予想以上の人が最後まで残ってくれて嬉しい。キャンドルナイトでは、一つのコンセプトの下に、サークルの壁を越えたイベントができて良かった。来年以降も中庭を生かしたイベントを続けてほしい」と語りました。イベントは苦勞の甲斐あって大成功。終了後には、参加した大勢の学生が後片づけまで手伝うなど、人の輪を広げるイベントになりました。

## 入学試験

### 推薦入学試験日 (センター試験を課しません。)

人文・地域教育・理・農学部  
出願期間 11月1日(木)～5日(月) 土・日を除く  
医・工学部  
出願期間 11月1日(木)～6日(火) 土・日を除く

- 人文学部(山形市)  
11月20日(火)・21日(水)
- 地域教育文化学部(山形市)  
11月20日(火)・21日(水)
- 理学部/物理学科(山形市)  
11月12日(月)
- 医学部(山形市)  
11月22日(木)
- 工学部Aコース/機能高分子工学科、物質化学工学科、機械システム工学科、情報科学科、応用生命システム工学科(米沢市)  
11月17日(土)
- 工学部Bコース(米沢市)  
11月17日(土)
- 農学部(鶴岡市)  
11月15日(木)

### 社会人特別選抜試験日

出願期間 11月1日(木)～5日(月) 土・日を除く

- 人文学部/法経政策学科(山形市)  
11月10日(土)
- 地域教育文化学部/文化創造学科(山形市)  
11月20日(火)
- 工学部Bコース(米沢市)  
11月17日(土)

### 編入学試験日

出願期間 10月9日(火)～12日(金)

- 人文学部3年次(山形市)  
11月10日(土)

### 別科試験日

出願期間 11月1日(木)～5日(月) 土・日を除く

- 養護教諭特別別科(山形市)  
11月24日(土)

問い合わせ/学務部入試ユニット

TEL 023-628-4141

## オープンキャンパス

### 工学部ミニオープンキャンパス

日時/10月20日(土)・21日(日)

場所/米沢キャンパス(米沢市)

対象/高校生他どなたでも参加できます。

内容/研究室公開、入試相談コーナー(20日のみ)

参加費/無料

問い合わせ/工学部事務ユニット学生サポートチーム

入試担当 TEL 0238-26-3013

## 公開講座等

### 人文学部

### 裁判員制度を考える

実施まであと1年。  
その時、あなたは どうする？

日時/10月5日(金)～26日(金)

18:30～20:30 毎週金曜日 4回

場所/人文学部講義室(山形市)

募集人員/一般の方、大学生、高校生 30人

受講料/2,000円(大学生、高校生は無料)

問い合わせ/人文学部事務ユニット

総務チーム

TEL 023-628-4203

### 地域教育文化学部・理学部

### 小白川キャンパス

### トワイライト開放講座

(後期開講分)

	地域教育文化学部	理学部
日時	平成19年10月～平成20年2月	
	毎週水・木曜日	毎週金曜日
	16:30～18:00	
場所	地域教育文化学部	理学部

講義内容/【地域教育文化学部】

発達史地形学、美術科教材研究A

【理学部】サイエンスセミナー

対象/高校生

(理学部は一般の方にも開放しています。)

受講料/無料

その他/詳しい講義内容は、各学部HP等を

ご覧ください。講義開始日、休講日等にもご注意ください。

問い合わせ/学務部修学支援ユニット

人文学部担当

TEL 023-628-4709



### 工学部

### 計測自動制御学会東北支部 第238回研究集会

日時/10月18日(木) 10:00～18:00

場所/工学部中示範C教室

対象/大学教職員、学生、企業の方、一般の方  
参加費/無料

その他/内容は計測と制御に関する大学院  
程度の研究発表会です。

問い合わせ/大学院理工学研究科機械

システム工学分野

大久保研究室

TEL 0238-26-3245

### ホームカミングディ

日時/10月20日(土) 12:30～14:00

場所/工学部中示範B教室

対象/山形大学工学部卒業生・修了生

参加費/催し物による

その他/12:30～オープニングセレモニー、

記念講演会

講師:タカラ創業者 佐藤安太氏

問い合わせ/工学部事務ユニット

企画総務チーム

TEL 0238-26-3005

### 工学部コンサート

### 『重文ジャズコンサート』

日時/10月20日(土)

第1回 15:00～16:00

第2回 18:00～19:00

場所/山形大学工学部内

旧米沢高等工業学校本館2階

対象/音楽好きな方

入場料/無料

問い合わせ/工学部事務ユニット

企画総務チーム

TEL 0238-26-3005



### 日本機械学会東北支部特別講演会

### 私の学生生活と会社生活

講師:日立電線株式会社代表取締役社長

佐藤教郎氏

日時/10月25日(木) 12:45～14:15

場所/工学部大示範教室

対象/学生、教職員、一般の方

参加費/無料

山形大学の行事・催事のご案内です。  
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

問い合わせ／大学院理工学研究科機械  
システム工学分野  
鈴木研究室  
TEL 0238-26-3197

#### 農学部

### 農学紹介講座 農学の夕べ

日時／8月23日(木)～12月6日(木)  
原則として木曜日の18:00～19:30  
なお、毎回17:30から学内見学ツアーも企画

場所／農学部3号館(鶴岡市)

対象／一般の方、大学生、高校生

内容／分かりにくい、イメージを持ちにくいといわれる農学を、気軽に広く知ってもらおうと企画したものです。農学研究は作物を育てるだけでなく、食、バイオテクノロジー、環境問題など、その対象はじつに幅広くなっています。毎週、さまざまな分野の教員が研究の今を語ります。プログラムなど詳しくは農学部ホームページをご覧ください。お問い合わせは、下記にお問い合わせください。

受講料／無料(事前申し込みは不要)  
気軽にお立ち寄りください。

問い合わせ／農学部事務ユニット  
学部チーム(学務担当)  
TEL 0235-28-2808  
FAX 0235-28-2814

#### 附属博物館

### 山形美術館の傑作たち Part 2

日時／11月17日(土)～12月1日(土)  
13:30～17:00 毎週土曜日 3回

場所／山形美術館(山形市)

募集人員／一般の方 50人

受講料／2,000円

問い合わせ／附属博物館事務室  
TEL 023-628-4930

### 平成19年度特別展 「山に学び山を描く」

#### — 五百澤智也の世界 —

日本アルプス・ヒマラヤを中心に

日時／12月1日(土)～23日(日)

場所／山形県郷土館文翔館

ギャラリー5～8(山形市)

内容／山岳鳥瞰図作家、そして氷河地形研究者として活躍している五百澤智也氏

は、山岳雑誌にステレオ写真を使って描いた日本アルプスやヒマラヤの山岳鳥瞰図を連載、高い評価を得ています。この特別展は、氏の業績を出身地である山形で広く紹介し、「山岳鳥瞰図の世界」を堪能していただくというものです。

展示内容／山岳鳥瞰図(日本アルプス・ヒマラヤ)、日本アルプスと氷河関連山岳図、その他

※期間中、12月8日(土)に五百澤氏の講演会・シンポジウムを企画

問い合わせ／附属博物館事務室  
TEL 023-628-4930

#### 保健管理センター

### 病気の理解と予防

日時／12月8日(土) 13:30～16:30

場所／小白川キャンパス教養教育2号館  
211番教室(山形市)

募集人員／一般の方、大学生 100人  
受講料／500円

問い合わせ／保健管理センター  
TEL 023-628-4154

## 大学祭

#### 小白川キャンパス

### 八峰祭

日時／10月27日(土)・28日(日)

場所／小白川キャンパス(山形市)

内容／逆ミス・ミスターコンテスト、豪華賞品!大抽選会、「ミニ緑日」ハッピーパーク、お笑いライブ(ネゴシックス他)、中夜祭



#### 工学部

### 吾妻祭

日時／10月19日(金)～21日(日)

場所／19日米沢女子短期大学構内

20日・21日山形大学工学部構内

テーマ／COLORS

内容／FUNKY MONKEY BABYS LIVE、クワバタオハラ爆笑ライブ、アームレスリング大会、ビンゴ大会、フリーマーケット、お化け屋敷、えんいち

吾妻祭HPアドレス／

<http://www.azumasai2007.net>



#### 農学部

### 11月祭

日時／11月3日(土)・4日(日)

場所／農学部(鶴岡市)

内容／鶴岡産直組合との合同野菜即売、研究室紹介、模擬店・フリーマーケット、サークル発表、もちつき

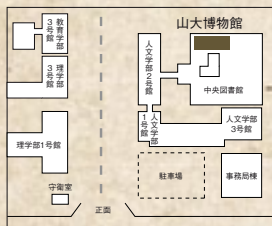


# 山大博物館

YAMADAI MUSEUM

## シリーズ⑩

山形大学附属博物館の  
収蔵品をはじめ、  
大学が誇る貴重な資料を  
紹介いたします。



附属図書館及び附属博物館は学外の方も  
ご利用いただけるように開放しております。  
利用方法等は図書館カウンターにお  
申し出ください。知的宝物がいっぱいの  
附属図書館・博物館に是非お越しください。

蕨手刀は柄頭のカーヴが早蕨の形状  
に似ていることからこの名がつけられ  
ました。古墳時代末期に実戦で使われ  
ていた刀で、日本刀の原型といわれて  
います。この刀は刀身と柄が一体に造  
られ、平背、平造り、無反りで、柄(握  
りの部分)には糸状の布や樹皮を巻き  
付けて使用しました。柄にカーヴがつ  
いているおかげで握りやすく安定感が  
生まれます。

蕨手刀は全国で200例近く発見され  
ていますが、そのほとんどは東日本、  
そして東北・北海道に集中しています。  
その理由として奥州の蝦夷討伐に従軍  
した兵士が携帯したものとする説もあ  
りますが、奥州討伐に激しく抵抗した

蝦夷の主たる武器であったという逆の  
見方もあります。古代、奥州で蝦夷が  
活躍していたのは現在の岩手県北上地  
方、中世において平泉では金や鉄の豊  
かな鉱物資源を背景に、平泉藤原三代  
が華麗な平泉文化を作り上げています。  
「奥州」における「製鉄」「鍛冶」の技術  
が蕨手刀を生み出したのではないかと  
考えられます。

腐食が激しくボロボロだったこの蕨  
手刀は、平成6年に腐食防止保存処理  
のため新日鉄釜石文化財保存処理セン  
ターでの処置が施されています。蕨手  
刀のルーツが奥州であるならば、この  
刀は1,500年以上の時を経て奇しくも里  
帰りを果たしたことになるのでしょう。

## 蕨手刀

全長50センチ 刀部/幅4.2センチ 寒河江市箕輪出土



## 編集後記 Editor's Note

山形の歴史をもう一度見直す研究の特集記事を興味深く読んでいただきましたか。今年は、暑い夏でした。山形が74年間保持していた日本最高気温を失いました。予想を超える地震の大きさと原子力発電所が停止しました。政治の世界に目を向けると、参議院選で自由民主党が大敗し、日本の政治が変わる必要を国民が決断しました。山形大学も文部科学省を退官された結城氏を学長に向かえ、日本中の人が注目するところとなりました。新学長のインタビュー記事を巻頭に掲載し、読者の皆様に今後の山形大学の目指すところをお伝えすることができました。いろいろな意味での節目の夏だったと思います。広報誌「みどり樹」を通して、今後も様々な山形大学の研究・教育・地域貢献等の活動について紹介し、山形大学の今を伝えていきたいと思っています。

(広報委員会委員 栗山恭直)

### 表紙の ことば

人文学部プロジェクトの主要メンバー4名が一堂に会しての報告会。それぞれの研究の進捗状況を報告したり、自分の研究に対する他の先生方の意見を求めたり。和やかかつ真剣な雰囲気の中、話は徐々に熱を帯びてくる。

- この「みどり樹」は下記URLからもご覧になれます。  
URL : <http://www.yamagata-u.ac.jp/html/kouhoushi.html>
- 「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にお寄せください。  
E-mail : [sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)
- 「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

—地域に根ざし、世界を目指す—



山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>